

津山だいき！



わたしも  
ついで

市営プールを  
廃止した後  
どんな支援を？

市役所のそばの市営プールを市役所の駐車場にすると聞きました。駐車場が狭いので便利になると思います。代わりのプールは造らず、水泳競技をソフト面で支援していくそうですがどのような内容ですか？

(メールでのお便り)

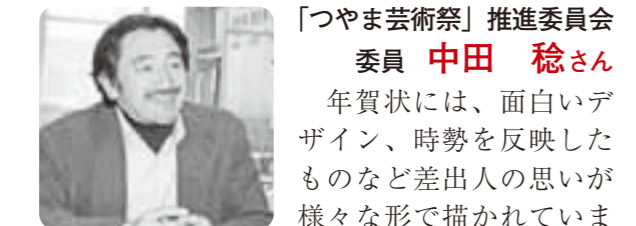


完成を伝える広報つやま(昭和36年7月号)

市営プールは昭和36年に完成しました。約半世紀近く経過したため、プール本体や水道管が老朽化しています。一昨年漏水修理を行い少しは改善しましたが、昨夏も毎日95トン(約5万円相当)程度の水が無駄になる状況でした。そこでやむなくプールの廃止を決めました。  
長さが50mあるこのプールは水泳競技の公認プールでもあったため、今回の廃止で関係者にはご迷惑をおかけしますが、今後市としてソフト面で競技を支援していきたいと考えています。水泳連盟など関係者と相談しながら、既存の25mプール施設の公認化もめざして研究していきます。  
スポーツ課 24・0202

# わたしのおすすめ

## 手作り年賀状の良さ味わって



「つやま芸術祭」推進委員会 委員 中田 稔さん

年賀状には、面白いデザイン、時勢を反映したものなど差出人の思いが様々な形で描かれています。「えとあーと」では、そんなあなたの心に残った年賀状を募集し、展示します。  
自分が作った作品ではなく、届いた年賀状を応募するのがこの企画のユニークなところ。また展示会場では、実際に手に取って見ていただきたいと思っています。額入りの絵を鑑賞するような敷居の高さはありません。ちなみに昨年はこたつに入りながら作品を見てもらえるようにしました。今年は、新たな試みとして来場者による人気投票も考えています。

年賀状は、手作りの感覚を相手に伝えることができます。Eメールやブログが盛んな今だからこそ、明治時代に始まったこの日本の文化を見直してみたいかがでしょうか。

**えとあーと**

●年賀状募集  
応募方法 所定の応募用紙に必要事項を記入し、作品を送付または持参  
締め切り 1月23日(火)

●展示  
とき 2月3日(土)~12日(休)  
ところ 城東むかし町家(旧梶村邸)

応募・問い合わせ先 津山文化振興財団 24-0201

※今年は「つやまあーと」は開催しません



☆津山朝日新聞へ「アナウンサーのひとり言」連載中

# 未来をひっばる 津山人

## 天下の名城津山城への思い

フリーアナウンサー 押阪 忍さん



名司会者として全国的にその名を知られ、最近では津山市の観光大使に就任。様々なイベントでその卓越した語り口調を披露し人々を引き込んでいます。今回は津山市出身のアナウンサー 押阪忍さんを紹介いたします。

市の観光大使として活躍いただきありがとうございます。

これまで津山城築城400年記念事業や津山さくらまつりなどに出席させていただきました。津山高校卒業後18歳で上京し、再びふるさと出身のアナウンサーとして大勢のみなさんの前でお役に立てることをうれしく思っています。3年前「津山城築

城400年・市制施行75周年記念式典」で司会を務めさせていただいたことは、特に印象に残っています。

津山城備中櫓の落成記念式典にも出席されましたね。  
「津山に過ぎたるもの3つあり」といわれ、津山城跡はその筆頭にあげられます。家から近かったこともあって、子どものころから「お城山」と慣れ親しんでいました。全国各地を見て回りましたがあの石垣は「日本一」です。2年前には往時をしのばせる美しい備中櫓が完成。津山の新しいランドマークができ、うれしく思っています。  
津山城復元CG「よみがえる津山城」ではナレーターとして出演されました。  
多くの仕事を経験してきましたが、その中でもアナウンサー冥利に尽きる仕事でした。津山城は他の名だたる城にも引けをとらない天下の名城。だからこそ「これこそ津山に残すべきもの！」と思い、何度も原稿を読



み返して臨んだ入魂の作品です。高校時代までの押阪少年は？  
意外に思われるかもしれませんが、中学・高校では卓球に打ち込んでいました。津山高校卓球部ではインターハイで団体2位という成績も残しました。押阪さんの目から見て津山はどのように変わりましたか？  
市内中心部の北側が開け、新しいまちができて南北の軸が感じられます。一方、私の生まれ育った中心部に城下町のさんざめきがなくなっています。ぜひ、知恵を出し合って往時をよみがえらせてほしいですね。

言葉のプロからみて作州弁は？  
大人になってその良さがわかってきました。「きんちゃん」「そうじゃー」「せーでなあ」といった響きは、津山の土や川のおいしさを感じさせます。方言

は立派な文化。昔話や童話など日常の会話で、おじいさんやおばあさんが子どもや孫たちに受け継いできた大切な言葉です。津山を離れた多くの人がそう感じていると思います。

市民のみなさんへメッセージを。向こう三軒両隣で人肌を感じ、笑い声の聞こえる生活が息づいたまちが私は好きです。地域のコミュニケーションを大切にしながら、ふるさと津山に元気を与え続けてください。  
観光大使のほか、折に触れて自身のプロフィールには「岡山県津山市」と記すなどマスコミや講演会など様々な場面で津山を全国にPRしてこられた押阪さん。平成17年度には津山市文化功労者として表彰されました。1月下旬には津山への思いも盛り込まれた著書「ことばの宝箱」(PHP研究所)も出版されます。これからも津山の魅力を全国の人々に発信し続けてください。



▼押阪さん入魂のナレーションが津山城再現CGを演出(市立図書館で閲覧・貸出)